

現代を生きる水戸の人に問う。水戸が明治維新に深く関わっていたことを知っているか。悲しいことに、それを知っている人は居ないに等しい。どうしても、明治維新を直接推し進め、倒幕した薩長土肥の雄藩に焦点が当てられてしまう。西郷隆盛や桂小五郎、坂本龍馬などの明治維新の英雄と呼ばれる者たちの活動を可能にしたのは誰か。水戸藩の者たちである。まずそこに着目すべきだ。これより、水戸の明治維新から現代の水戸に通じることについて論じていきたいと思う。

江戸時代、水戸が日本中で最初にその名を轟かせたのは、水戸藩二代目藩主、徳川光圀の水戸学だろう。江戸中期の大日本史編纂において「水戸学」という新たな学問が誕生し、幕末期では水戸藩学者、会沢正志斎の「新論」により尊王攘夷論が提唱された。その尊王攘夷論は全国の人々に感銘を与え、かの吉田松陰も感銘を受けた。水戸藩九代目藩主、徳川斉昭によって藩政改革が行われ、藩校や郷校が設立され、会沢正志斎、藤田東湖、豊田天功などの優秀な人材登用を推進した。その者たちは斉昭チルドレンとでも言うべきだろうか。しかし長年藩政を支えてきた上級藩士は快く思わない。そこで対立が起きてしまうのである。その後の天狗党（斉昭チルドレン）と諸生党（上級藩士）の対立が分かりやすい。斉昭は正志斎提唱の尊王攘夷論を信奉していた。

私が水戸藩が明治維新に深く関わっていると言えることには明確な多くの根拠がある。まず先程の新論。そして当時は過激派と言われた、藩校の弘道館や藩内各地に点在する郷校で学んだ尊王攘夷論を信奉する者たちの起こしたクーデターである。その中で最も評価されるべき事件は、桜田門外の変である。時の大老井伊直弼の勝手な不平等条約締結、一方的な安政の大獄による独裁政治を終わらせたところに評価されるべき点がある。その事件があったことで明治維新の第一歩、文久の改革が始まった。明治維新の四年前、水戸藩終焉の天狗党の乱。これはただの藩内抗争だと言われてしまうが、幕府から人心を引き離すことになった出来事だ。これは天狗党と諸生党、幕府をも含む争いであり、5年間続くことになる。桜田門外の変で斃死した井伊直弼が締結した不平等条約により、水戸藩内及び全国の民が困窮していた。そこで幕府に圧力をかけ、最大の港である横浜を占領する目的を持ち、立ち上がったのが天狗党である。民の心を代弁する勇者だった。しかし、天狗党の敵、諸生党は謀略、讒言を用いて幕府を引き入れ、幕府は諸藩に天狗党追討令を出してしまうのだが、自らの信念を持ち、義を有す天狗党は士気が高く、藩領内各地で連戦連勝。当然、水戸城下でも戦いがあった。その後、彼らは当初の目的を断念せざるを得なくなり、師である斉昭の子、一橋慶喜に意志を伝える為、一同、那珂湊から京へ幕府軍に追われながら目指した。だが、自分たちの置かれている状況を把握し、京の手前、越前国新保で降伏した。慶喜に身を委ねたのである。そこで慶喜は、自分を頼って雪山登山同然の道を辿ってきた彼らを見捨て、自分の身を第一に考えて、幕府に彼らの身柄を引き渡し、828名中、352名が処刑された。中心的メンバーの一家まで斬首された。このことにより、民は新たな英雄誕生を期待する。民を味方につけた雄藩は倒幕することができたのである。処刑されなかった天狗党の残党は諸生党を徹底的に追いつめ、諸生党が天狗党にやってきたことをそのままやり返し、復讐した。血で血を洗うその姿は、水戸の人の目にどのように映ただろう。さて、水戸の皆さんはこれらの事実を知っていたらどうか。

水戸藩と幕府、天狗党と諸生党は対立していたが、この日本を守ることを第一に考える心は同じだった。

今年、明治維新 150 年を迎えた。会津若松では戊辰戦争 150 年であると言う。私はそこに感慨深いものを感じた。それは市民の、過去を顧みる心である。水戸では明治維新、会津では戊辰戦争に市民の心が引きつけられるのだろう。私は会津でコンビニに立ち寄った際、書籍コーナーを見た。すると、戊辰戦争の本や郷土愛に満ちた本が立ち並べてあり、呆然と立ち尽くしてしまった。こうも会津の人と水戸の人の心に違いがあるものかと。水戸のコンビニで水戸の歴史の本など一度も見たことが無い。これはあってはならないことである。水戸市は早急に市民に水戸藩の歴史を伝え、郷土愛を持ってもらうよう、手段を講じるべきである。でなければ、水戸市は過疎化してしまうと言っても過言ではない。私は茨城県の大学に通う意味を感じず、大学の進学先は県外の予定だ。友人に至っても皆、首都圏の大学へ進学すると口を揃えて言う。水戸の先人たちが故郷を魅力に感じ、水戸の為に働くことの喜びを感じたように、水戸市は若い人達の為の町づくりをしていかななくてはならないと考える。

参考文献

伊東潤『義烈千秋 天狗党西へ』新潮文庫

吉村昭『天狗争乱』新潮文庫

吉村昭『桜田門外の変（上）』新潮文庫

吉村昭『桜田門外の変（下）』新潮文庫

朝井まかて『恋歌』講談社

かすみがうら市郷土資料館『水戸藩天狗党と新選組高台寺党（前編）』

水戸市教育委員会『水戸の歴史』

小林宏次『水戸に息づく徳川斉昭』（株）高野高速印刷

小林宏次『入門、東湖読本』